

# 紀要第 30 号の刊行にあたって

学長 松 田 幸 子

上田女子短期大学大学紀要は、本号で第 30 号となりました。そこで今回は、記念号として紀要を刊行することになりました。

本学は昭和 48 年に創立して以来、敬愛、勤勉、聡明の徳目を教育理念として学生の教育にあたってまいりました。人生の門出の前の数年間を大学で学ぶ学生の教育において最も必要とされるものは、学生が未知なる社会に巣立ち、自分の人生を自分の力で切り拓いていく能力を養うことであり、正しい判断力を身につけさせることでもあります。そのためには教育する側の教師たちも不偏不党を心がけ、あらゆるものに勇敢に立ち向かう精神の持ち主でなければなりません。それには常に研究を続けることが必要となります。周知のように研究とは、未知なる問題を広い視野に立って探求し、回答を見出すものでありますから、研究をすることによって人の心には自ずから自由な判断力が育つものであります。

ドイツの実存哲学者ヤスパース (1883 ~ 1969) は、著書『大学の理念』(森昭訳、理想社)の中で次のように述べて、大学における研究の重要性を指摘しております。

「大学では学問によって真理を探求し、かつ伝達するところである。……真理は学問によって探求されるべきものであるから、研究は大学の基本的関心事である。……真理は伝達されるべきものであるから、教授(授業)が大学の第二の課題である。単なる知識と技能の伝達は、真理の把握にとって不十分であり、真理の把握はむしろ全人の精神的形成を要求するのである……」

全人の精神的形成は、人の正しい判断力を養うことでもありますので、不断の研究が大学人には要求されるわけであります。そのためにこの紀要が毎年刊行され、先生方の学問的交流の場となることを願っております。